

## 三財小中学校 令和3年度学校評価

※ 評価は、4段階評価 4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:どちらかといえばそう思わない 1:そう思わない

経営目標	本年度の重点目標	目標達成のための具体的実践							分析・考察	今後の対応	学校関係者評価委員意見		地域からの主な意見	保護者からの主な意見
			1.2.3年	4.5.6年	7.8.9年	保護者	職員	地域			評価			
(1) 学びの財	見える学力の向上	1・板書の工夫、めあて、まとめの明確化、発問、指示の工夫、ICTの活用など分かりやすい授業に取り組んでいる。 ・先生の授業は分かりやすい。 ・先生が分かるまで教えてくれる。	3.8	3.7	3.5	3.2	3.1		・授業が分かりやすいと答えた児童生徒の割合がわずかに減っており、先生が分かるまで教えてくれると子供が言っていると答えた保護者も減っている。分かりやすい授業に取り組んでいるという職員の意識は変わっていない。授業をより分かりやすいものにすることが求められる。	・授業において指導者による差が生じないよう、全教職員で授業力改善に取り組む必要がある。具体的には相互参観授業だけでなく、授業後のフィードバックに多くの参観者が加わり意見を交わしながら内容充実を図っていく。	3.5	・授業を理解している生徒とそうでない生徒の差を感じる。 ・学習に対する意欲が感じられず、将来の夢を尋ねても返ってくる子が少ない。 ・学力に応じて教える先生を変えるなど工夫が感じられた。 ・子供の宿題を見ると漢字の計算の指導徹底は感じられる。 ・担任の先生に拒否感をもつ児童には、1対1で話す機会もあつてもよいのではないか。 ・読書は家庭の影響が大きい。本に目が向く仕掛けや環境作りが必要。 ・ブックパックを持って帰る子供の姿を最近見かけなくなり心配。 ・乳幼児期からあそびを通して基礎学力の習得につながるような環境作りを意識し、自ら知識を得ることが楽しいと感じて欲しいと願っているが、様々な環境因子が絡んで分からないうことが積み上がり勉強が楽しくなってしまう。その連鎖を止めるよう頑張りに気付く大人の存在と解決できる時間を作れる環境作りが必要。		・去年と比べると学校の士気がないように感じる。何かあっても言いづらくなったように感じる。 ・忘れ物をしても先生が怒らないので何とも思っていない。貸してくれるのが当たり前、体育の授業も休めば良いと思っている。 ・テスト前に先生方が過去問等をコピーして事前対応してくださるので、子供たちは懶でない。 ・先生の喜怒哀楽がない、長期休みの宿題が少なすぎる。少なすぎて1日で全て終わってしまう。 ・先生によってレベルの差が激しい。教育の目が行き届いていないと思う。
		2・基礎学力の定着を図るために指導を行っている。 ・漢字や計算などを覚えようと努力している。 ・漢字や計算など基礎的な学習を努力してだと思う。	3.8	3.6	3.4	3.1	3.3		・漢字や計算などを覚えようと努力していると答えた児童生徒は減っており、学年が上がるにつれ減っている。基礎学力の定着を図るために指導を行っているという職員の意識は高まっており、明らかなギャップが窺える。	・授業の隙間時間を活用した図書室の利用を増やすとともに、保護者にも読書の大切さについて理解してもらえるようPTAと連携する。				
		3・読書に親しむための指導を行っている。 ・よく本を読んでいる。 ・家庭で読書を薦めている。	3.6	3.0	2.3	2.8	2.5		・児童生徒、保護者共に本を読んでいる(読書を薦めている) ・児童生徒が減っており、職員も読書に親しむ指導を行っている割合が低くなっている。	・総合的な学習の時間だけでなく、各教科においてもキャリア教育の視点を踏まえた授業を増やしていく。				
		4・将来の夢や希望をもてるような指導を行っている。 ・将来の夢をもっている。 ・子どもと一緒に将来の夢について話している。	3.7	3.5	3.2	3.3	2.9		・将来の夢を持っている児童生徒の割合は大きく変化していないが、将来の夢や希望をもてるような指導を行っている職員の割合が下がっている。					
(2) 心の財	自己肯定感と豊かな人間性の育成	5・問題行動(いじめ)などについて報告・連絡・相談を確実に行い、迅速に対応するよう努めている。 ・誰とでも仲良くし、いじめをなくそうとしている。 ・家庭で、いじめをしないよう指導している。 ・学校外での子供たちのトラブルについて地域で対応できていると思う。	3.7	3.8	3.8	3.7	3.3	3.2	・問題行動について組織として迅速に対応している意識が職員で下がっている。小さなトラブルにも一つ一つ対応するとともに不登校傾向の児童生徒にも組織的に対応することを再確認する必要がある。	・児童生徒の小さな変化を見逃さないよう、毎週水曜日に行っている全職員による情報共有を継続する。また、いじめや不登校については担任だけでなく組織での対応を引き続き徹底する。	3.5	・問題行動への対応は見えているところの対応は良いが、問題行動を見つけることができていない。 ・不登校の指導はきちんとされているのか。早く気付き何とかできなかつたのか。 ・登下校など挨拶はできていない。 ・中学生は自ら挨拶してくれるが、小学生は言葉掛けをしても帰ってこない。指導がなされているのか。 ・挨拶は良くしてくれるが、知らない人から声をかけられた時に応えるか心配な面もある。 ・いじめ防止のための基本方針や対策もあり良いと思う。 ・規則や校則を一方的に押しつけるのではなく、生徒と先生が一緒にになって改善して、今の時代に合わせていく所は良かった。 ・ありがとうという言葉を最近耳にしなくなった。感謝の心は育まれているのか。 ・子供たちに羨氣をあまり感じなくなった。 ・挨拶、返事、整理整頓は、家庭ではできていないことかと思うが、見本となる大人で違いが出てくるのではないか。近所の中学生は元気に挨拶してくれる。	・言葉遣いの悪さは感じる。学校(日中)でも、そのような場面があれば指導してほしい。心を痛めている子供がいる事実がある。	
		6・あたりまえ三ヵ条の指導を日常的に行っている。 ・あいさつ・返事・整理整頓をやっている。 ・家庭で挨拶・返事・整理整頓ができる。 ・児童生徒は地域で大きな声で挨拶や返事をしている。	3.7	3.7	3.6	2.8	3.2	3.2	・当たり前三ヵ条の指導を日常的に行っている職員の割合が減ったことと連動し、児童生徒も意識してやっていると答えた割合が減っている。職員の意識を高めることができ児童生徒の意識変容にもつながる。	・全職員の徹底指導により校内での挨拶は良いが、保護者や地域の方から登下校中は良くないという声が多いため、誰のために何のために挨拶をするのかを伝えながら自発的に挨拶できる心を涵養していく必要がある。		・挨拶はよくしてくれる、こちらから声掛けすると逃げるように去ってしまう。 ・中学生に関してはよく挨拶してくれるが、小学生の一部には全く挨拶の返事がない児童が最近見られる。学校ではちゃんとできているのであれば、大人の様子をうかがい繕うということなのかなと思う。人を見て判断している様な気がする。 ・登校時横断歩道で停止してくださっている方に挨拶をきちんとしている。 ・中学生の自転車通学時に一時停止をせずに横断する生徒を見かける。学校でも注意喚起をお願いしたい。 ・信号機のない横断歩道を渡る前に左右をよく確認しない児童・生徒がいるのが気になる。 ・おはようございますの声掛けに無反応の小学生もいる。恥ずかしさもあるのか淋しい気がする。中学生は殆どの生徒が自分から挨拶してくれるで成長の過程かなとも思う。	・学年が上がるにつれて挨拶をしてくれる気がする。特に中学生は素晴らしいと思う。上の学年を見て、良い参考になつていいのだと思われる。	
		7・学校のきまりについての指導を徹底するとともに、日常指導の充実を図っている。 ・学校のきまりを守っている。 ・家庭できまりを守っている。 ・児童生徒はきまりごとを守っていると思う。	3.8	3.9	3.7	3.5	3.1	3.3	・学校の決まりを守っていると答えた1~3年生が昨年度より0.2ポイント下がっており、職員の指導徹底の意識も下がっている。下学年の児童に対する徹底指導に課題が見られる。	・周りに感謝する気持ちをもつようにしている、もっているという意識は昨年度と変わらず高い割合である。				
		8・全てのことに感謝の気持ちをもたせる指導を行っている。 ・ありがとうという気持ちをいつも持つようにしている。 ・周りに感謝する気持ちをもっている。 ・児童生徒は周りに感謝する気持ちをもっていると思う。	3.9	3.9	3.8	3.3	3.3	3.0						
(3) 身体の財	健康・安全意識と体力の向上	9・自分や身の回りの命の大切さを考えさせる指導を行っている。 ・自分や身の回りの命を大切にしている。 ・家庭で命の大切さについて話をしている。 ・児童生徒は自分や身の回りの命を大切にしていると思う。	3.9	3.9	3.8	3.5	3.4	3.3	・命の大切さについて考えさせる指導は年間を通して計画的に行っているため、高い評価となった。指導を継続することが児童生徒の意識を高めることにつながっている。組織的に行っていることも高い評価の要因と考えられる。	・SNSを通した人間関係のトラブルや生活リズムの乱れなど弊害について日々話をしており、児童生徒の行動は変わっていないため、PTAと連携し危険性を伝えていく。	3.5	・SSカードでの意識付けをもっと行って欲しい。保護者を巻き込む内容を考えていく。 ・車での送迎が課題。 ・以前は自力登校を推奨されていたが、今はどうなっているのか。車での送迎をよくにする。 ・小中学生共に登下校際はしっかりと列を組む。一列で自転車に乗るなど交通事故に遭わないような姿勢を感じる。 ・定期的、計画的に取り組んでいること、コロナの感染拡大予防対策指導がしっかりとされていることにより命の大切さの意識が高められている。 ・スマホやゲームなどによる乱れの弊害はなかなか防ぎようがないが、伝え続ける努力はしていかたい。生徒会や保健委員会を巻き込んだ取組は良いが、保護者にメディアや送迎について意識を高めて欲しい。 ・ゲームやYouTubeにのめり込んで夜更かしたり、命の尊さもゲームにかきけられる時がある。 ・コロナで体力作りの部活動もできず可哀想。	・現代の父親・母親はしつけが難しいとの声をよく聞く。保護者の声を十分受け止めて対応されているのだろうか。 ・交通安全等の立ち番で登校の様子を見ていると、天気により親が自動車で送る様子も時折見られる。 ・地区の児童数が少ないからかもしれないが、送り迎えが多く見られる。他の地区と合流して登下校することは難しいのだろうか。	・自分の子供を含めて、休みの日や下校してから通信ゲームなどが少し多い気がしている。ゲームを通しての会話になるので過激な発言なども目立つ。 ・何か子供が問題を起こした時などに、家庭と学校と一緒に問題を解決してくれるようしてくれるので本当にありがたい。
		10・SSカード記入を定期的に行わせ、基本的な生活習慣の実態把握と保護者への啓発に努めている。 ・早寝・早起き・朝ご飯・歯磨きなど規則正しい生活をしている。 ・家庭で早寝・早起き・朝ご飯・歯磨きなど規則正しい生活を指導している。	3.6	3.7	3.6	3.4	3.1		・早寝、早起き、朝ご飯、歯磨きなど規則正しい生活については、学年が上がるにつれ意識が低くなっています。中学生の意識が最も低い結果となっている。	・夜遅くまで起きていて体調を崩す生徒も見られるため、保健委員会の活動や保護者も巻き込んだ取組を考えていく。				
		11・体力向上プランに基づいた授業の充実と体力向上の活動の充実に努めている。 ・4月に比べて体力が向上している。 ・自力登校をしているなど、家庭で強い心や体力の向上につながる取組を薦めている。	3.8	3.6	3.4	3.3	3.1	3.1	・体力向上については、学年が上がるにつれ意識が低くなっています。家族に自動車で送迎してもらっている児童生徒が一定数いることや、雨の日は特に送迎が多いことは課題である。					
教務・管理部	信頼される学校づくり	12・一貫校のメリットを生かした指導を行っている。 ・ステージの目標を達成しようと努力している。 ・学校は小中一貫校のメリットを生かした教育の推進をしていると思う。 ・小中一貫校になった良さは生かされていると思う。	3.8	3.6	3.4	3.2	3.3	3.6	・小中一貫校の良さを感じている児童生徒は多い。中学生のリーダーとしての姿を見ている小学生は特に感じているようである。一貫校のメリットを生かした学校行事も評価を得ている。	・学校行事で中学生がリーダーとして輝く機会を今後も設定し、下学年がその後の自分の目標を見いだせるよう仕掛けていく。	3.1	・一貫校のメリットは生かされているが、中学部はもっと自立した考えを持って欲しい。 ・コロナ禍で全てが十分でないのは感じている。 ・コロナで地域との繋がりもほとんどなくなり、学校と地域が連携する教育や指導もなくなつた。HPも見せてもらったが評価の仕様がない。 ・コロナで行事の実施も難しい中、HPを活用し定期的に更新し工夫されていると感じる。コロナが収まり、一貫校長さをアピールできる機会が増えると良い。 ・コロナ禍でも自分たちでできる事を考えて努力して実施している様に感じた。 ・少子化とコロナの関係で行事もなく、色々な面で簡素化されている部分が数多く見られていて、同じ集落においても子供たちが友人と一緒に遊ぶ姿を見るよりもほとんどなく、ましてや集落の子供さえ顔を知らないという声も聞かれます。学校の様子も全く知り得ない住民が多いと考えられます。	・コロナのために地域の行事等が中止になり、子供たちとふれあう機会がないので現状がつかめない。 ・少人数の中での教育も難しいところがあると思うが、よろしくお願いしたい。 ・周囲に子供を見かけないので、地域との連携の実態がよく分からない。 ・三財の教育に関しては格差があるようを感じる。小中一貫は良い点も多く感じている。 ・少子化とコロナの関係で行事もなく、色々な面で簡素化されている部分が数多く見られていて、同じ集落においても子供たちが友人と一緒に遊ぶ姿を見るよりもほとんどなく、ましてや集落の子供さえ顔を知らないという声も聞かれます。学校の様子も全く知り得ない住民が多いと考えられます。	・1年生から9年生まで接することができるでの小中一貫校の強みだと思うが、新中学設立の説明会があると良い。
		13・児童が地域の行事や活動に積極的に参加したいと思うような指導をしている。 ・地域の行事や活動に積極的に参加している。 ・児童生徒は地域の行事や活動によく参加していると思う。	3.3	3.0	3.0	3.1	2.8	3.5	・コロナ禍において地域と連携した活動や地域の行事に参加する機会が激減しており、地域の方からも子供たちの顔や名前を知らないといった声も多かった。	・コロナ禍の中でも可能な限り地域と連携した活動を行えるよう、手段を模索していく。				
		14・通信やホームページを通して積極的に情報発信をしている。 ・学校のホームページを見ている。 ・学校は通信やホームページを通して積極的に情報発信をしていると思う。	2.2	2.1	2.2	3.1	3.0	3.2	・児童生徒の成長過程や学校での活動の様子を保護者や地域の方に提供できるよう、今後もホームページの充実に努める。					
		15・家庭・地域の人材を活用した取組を積極的に行っていている。 ・学校は家庭・地域と連携して教育を推進していると思う。							・4年生が地域の方に白太鼓を教えてもらったり、地域作り協議会と連携した取組は行っているが、コロナの感染状況に左右されることが多く回数も減ったため昨年度より低い評価となっている。					